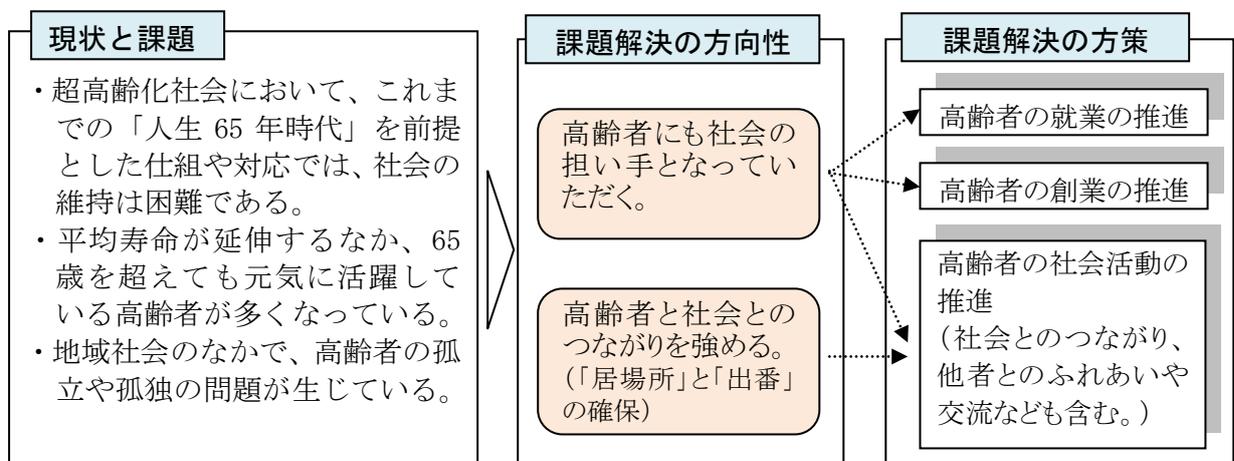


平成 25 年度 人生二毛作推進県民会議の意見要旨について

長野県健康増進課

昨年度の「人生二毛作推進県民会議」においては、高齢者が長年培った豊富な知識、技術、経験などを活かして、積極的に就業、創業や社会活動を行うことができる「人生二毛作社会」の実現を目指し、高齢者の就業や社会活動の場の創出・充実及びその活動の場への橋渡しの仕組みなどについて検討を行いました。

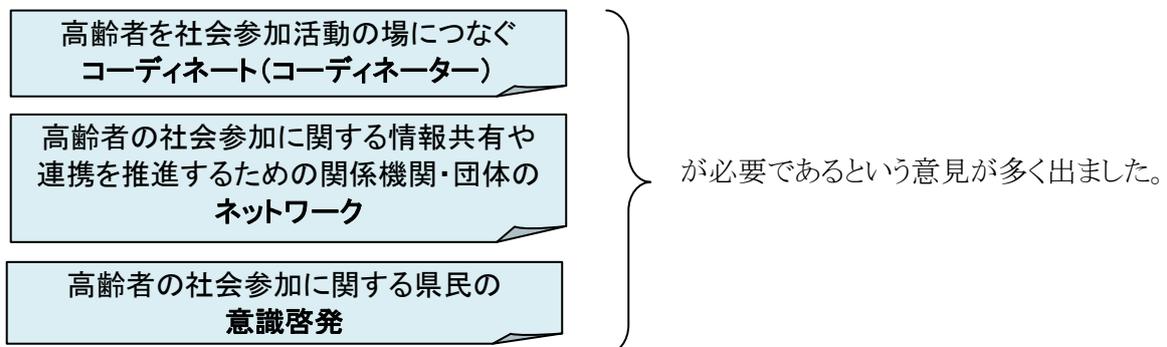
1 第1回県民会議(H25.7.17)



※高齢者の「就業」、「創業」、「社会活動」を併せて、高齢者の「社会参加」とする。

2 第2回県民会議(H25.9.20)

第2回県民会議の意見をまとめると、高齢者の「就業」、「創業」、「社会活動」の推進のためには、共通して、



第1回、第2回を踏まえ、第3回県民会議は、高齢者の社会参加を推進するための「コーディネート(コーディネーターのあり方について)」に焦点を絞り、意見交換を行いました。

① 「コーディネーター」はどんな役割を担うか？

つなぐ

- ・高齢者を希望する活動の場へつなぐ。
- ・高齢者に係る事業を実施している機関、団体同士をつなぐ。
- ・関係機関、団体及び地域のコーディネーター同士をつなぐ。

情報収集

- ・社会参加したい高齢者(人材)の情報収集
- ・高齢者を求めている活動の場の情報収集
- ・企業が求めている人材の情報収集
- ・高齢者の就業、創業、社会活動に係る情報の収集と発信

潜在的なニーズの明確化

- ・高齢者のニーズがあって、高齢者が活躍できるもの(場)を明らかにする。

活動の場づくり

- ・起業、創業、社会活動を考える高齢者が集まる場をつくる。

能力の発掘

- ・高齢者の能力を発掘する。
- ・高齢者の特性をつかむ。
- ・高齢者の一番よい社会参加の形を創り出す。

② 「コーディネーター」をうまく機能させるには、どうしたらよいか？

十分な資質を持ったコーディネーターの確保

- ・多くの選択肢を提案ができる。
- ・地域で顔が知られている。
- ・相手の身になって受け止める力(傾聴力)がある。
- ・コーディネーターを取りまとめる中核的なコーディネーターが必要
- ・高齢者の社会参加の推進に関する専門的な知識、技術を持っており、他のコーディネーターに伝授する。

※これらの資質を有することができるように研修会を実施する。

(前ページの続き)

適切な場所への配置

- ・気楽に集える場所に配置
- ・生活圏域(身近な場所)に配置
- ・市町村の枠を超えて配置

ネットワーク

- ・高齢者の社会参加に関係する機関、団体で構成する地域会議を設置し、コーディネーターとともに地域の連携を図る。
- ・地域会議の事務局を担う機関、団体が必要
- ・地域情報や様々な分野の情報が一元的に集まる仕組みが必要
- ・県レベルで関係機関、団体で連絡協議会をつくり、情報交換し、県全体の取組を推進する。
- ・各地のコーディネーターが一堂に集まる機会を持ち、取組を均一にする。

③ 各機関、団体は「コーディネーター」とどんな連携、協力をするか？

コーディネーター養成への協力

- ・各機関、団体が実施しているコーディネーターの育成に参加してもらおう。(カウンセリング方法の取得、シニアボランティア養成研修会共同開催など)

積極的な情報提供

- ・各機関、団体が行っている高齢者の社会参加の推進に関する取組を積極的に提供(雇用・就職相談、福祉分野の相談、サロンの実施など)
- ・コーディネーターが取りまとめた情報を各支所に提供
- ・各機関、団体が認識している高齢者の課題を提供
- ・高齢者が活動できる場の情報提供
- ・個々の高齢者の特技、希望、ニーズを積極的に伝える。

ネットワークづくりへの積極的な参加

- ・各機関、団体は、コーディネーターのネットワークづくりに積極的に参加する。
- ・情報交換を行い、現状や課題を把握し、各機関、団体の事業に活かす。

コーディネーターの配置及び高齢者の社会参加を推進するための「ネットワーク」に焦点を絞り、意見交換を行いました。

協 議 「コーディネーターは、どの機関、団体に配置したらよいか？」

⇒ 長野県長寿社会開発センターに配置することが承認されました

意見交換 「高齢者の社会参加を推進するためのネットワークについて」

～テーマ～

- ① 「ネットワーク」のあり方とは？
- ② 「ネットワーク」の構成機関・団体、事務局はどこか？
- ③ 「ネットワーク」をうまく機能させるための工夫、ポイントは何か？

① 「ネットワーク」のあり方とは？

情 報

- ・専門性を活かした情報発信、専門性を超えた情報収集が可能。
- ・多様なニーズの把握と情報提供、情報共有ができる。
- ・情報が集まりやすく発信しやすい(誰もが相談できる)。

つながり

- ・フラット(対等)な場、拘束の少ない場でスピード感が重要。
- ・関係する機関がそれぞれの強みを活かして相互に「つなげる」意識で。
- ・県全体としてのネットワークと地域ごとのネットワークの構築がともに必要。

姿 勢

- ・本音で話し合える環境づくりが重要。
- ・企業(労働組合)や学校等教育機関に退職前からの早めの情報提供が重要。
- ・共通の具体的な目標を持つこと。

支 える

- ・コーディネーターの活動をネットワークが支えていくことが必要。

②「ネットワーク」の構成機関・団体、事務局はどこか？

構成団体

- ・人生二毛作推進県民会議の構成団体 + α (多分野の団体等)
- ・限定せずに後から追加可能な仕組。

窓 口

- ・誰もが自由に入出りできる身近で公的な場所(市町村、病院、スーパー等)

事 務 局

- ・コーディネーターの配置機関(長寿社会開発センター本部及び各支部 10 地域)
- ・市町村の支所の社会福祉部門。

③「ネットワーク」をうまく機能させるための工夫、ポイントは何か

規 範 ・ 範 囲

- ・ネットワークとしての規模を大きくしすぎない。
- ・会議としてのネットワークと実働的なネットワークをわける。
- ・地域ネットワークと県全体ネットワークにおいて双方向のやりとりを行う。

費 用

- ・活動費用の支援(創業の財源支援等)が必要。

広 報

- ・情報を欲している方は多いので、高齢者への PR を工夫して、知ってもらうことが重要。

情 報 共 有 ・ 交 流

- ・定期的に情報交換・意見交換の場を設けることが必要。
- ・共有している情報が新鮮なことが重要。
- ・コーディネーター同士の情報共有・連携が必要。
- ・情報共有・提供する仕組・ツールを工夫することが必要。

あ り 方

- ・構成団体が対等な立場で議論できるようにする。
- ・自治体が関与することで安心・安全感がある。
- ・行政が主導になるのではなく、ネットワークの気軽さや自由さを活かすべき。
- ・参加機関のどこに連絡してもネットワークにアクセスでき、コーディネーターにつながることを重要。